

第1章 調査の概観

第1節 調査に至る経緯

本調査地区は、西府文化センター敷地内、東京都府中市西府町一丁目60番地に所在し、『本宿町遺跡』（府中市№22）及び『武藏国府関連遺跡』（府中市№2）の埋蔵文化財包蔵地の範囲にあたる。

今回、当地における府中市立第五学童クラブ分館建築が計画されたことで、令和4年2月24日、府中市子ども家庭部児童青少年課から文化財保護法第94条に基づく発掘通知が府中市教育委員会（以下「市教委」と表記）へ提出された（3府子児第257号）。これに対して、周辺の既往調査から当該地に埋蔵文化財が存在している可能性が高いことから、市教委及び東京都教育委員会（以下「都教委」と表記）は試掘調査が必要と判断した。令和4年8月1日・2日及び9月20日・21日に市教委は計9箇所のトレンチを設定し、試掘調査を実施した。その結果、中世以降の遺構が確認されたため、市教委は児童青少年課に対して、令和4年10月25日付で工事着手前に本調査が必要であることを通知した（3府文ふ第4号の418-4）。

その後、令和4年11月15日から埋蔵文化財の本発掘調査に着手した。



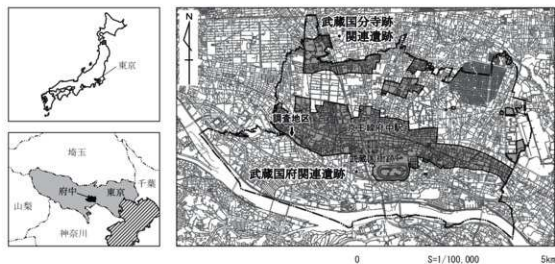
写真1 1区調査風景

第2節 調査地区の位置と周辺の地形

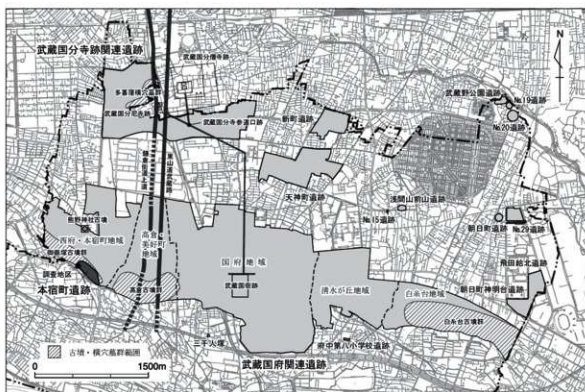
本調査区は、前述のとおり、東京都府中市西府町一丁目60番地の西府文化センター敷地内に所在し、『本宿町遺跡』及び『武蔵国府関連遺跡』の埋蔵文化財包蔵地の範囲にあたる。府中市の中心市街地にある京王線府中駅や大國魂神社からは、西に約2km離れた市城西部にあたり、国立市との市境に近い。最寄りの東日本旅客鉄道（JR東日本）南武線の西府駅からは西南西方向に約95m、それより北を走る国道20号線（甲州街道）からは南に約400mの位置にあたる。

また、地形的には、市城の南端を流れる多摩川の中流域左岸にあたり、古多摩川により形成された河岸段丘である武蔵野台地上の低位段丘、立川段丘面（T_c2面）縁辺部に位置している。本調査地点の南西を通る道路の向かいは、比高62～63mの府中屋線（通称「ハケ」）となっている。台地の端部で見通しが良いことから、本調査地点からは、崖下に広がる沖積低地と、その向こうには多摩川対岸の多摩丘陵を望むことができる。崖下には、湧水が崖線に沿って南東に向かって流路を形成しており、「西府町湧水」として、東京都環境局の「東京の名湧水57選」に選ばれている。

調査地区周辺に目を向けると、南西に面する道路は南東に向かい穏やかに低く傾斜しているが、西府文化センター敷地内は南西側に合わせて盛土等で平場造成をしている。そのため、敷地南西側は道路面とほとんどレベルは変わらないが、南東側は道路から1.5m程度高くなっている。同様に北東から府中屋線に向かって低くなる旧地形を平場造成していることが看取された。このことは発掘調査によって追認されており、第5節 基本層序において、改めて提示する。



第1図 調査地区の位置（1/100,000）



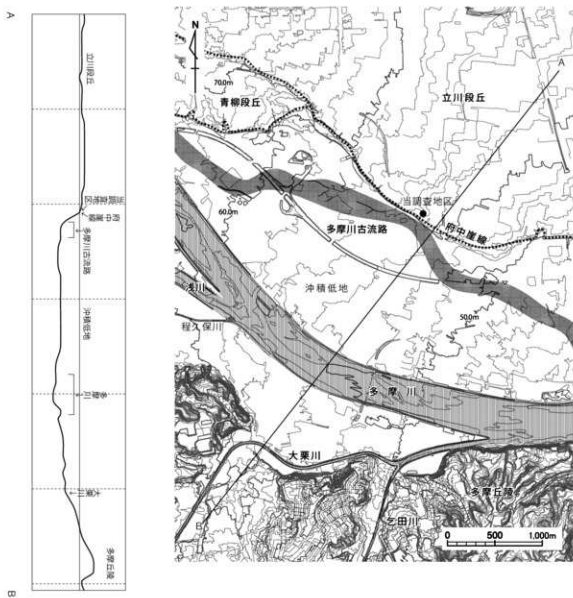
第2図 府中市内遺跡範囲図 (1/50,000)



第3図 調査地区位置図 (1/5,000)

遺跡番号	遺跡名	所在地	立地	種類	時代
2	武蔵国府関連遺跡	井町 寿町 小畑町 清水が丘 白糸台 八幡町 府中町 分福町 本宿町 緑町 宮西町 宮町 美好町 若松町 日吉町	台地・低地	官衙・集落	旧石器、縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中世、近世
22	本宿町遺跡	本宿町一丁目 西府町一丁目	台地	集落	縄文、奈良、平安、中世

第1表 該当する埋蔵文化財包蔵地 一覧表



第4図 調査地区周辺地形図 (1/4000)



写真2 昭和22年撮影 空中写真(米軍撮影 国土地理院所蔵)

第3節 周辺の遺跡と近隣の調査地区

本調査地点が該当している埋蔵文化財包蔵地は、『本宿町遺跡』及び『武蔵国府関連遺跡』である。『武蔵国府関連遺跡』は、現在の大國神社周辺に所在した武蔵国衙を中心に、武蔵国府に関連するとみられる集落跡等を内包する広大な遺跡であり、その規模は府中市の市域の約4分の1を占める。古代のみならず、旧石器時代から近世にわたる複合遺跡である。『本宿町遺跡』は『武蔵国府関連遺跡』の範囲に入れ子状に所在しており、縄文時代前期末葉から中期の集落跡を中心とする遺跡である。当該地はこの2つの遺跡が重複する範囲に位置する。

当該地西東方の府中市立府中第五小学校周辺では、昭和40年代から縄文土器の散布地として知られていたが、この地域の遺跡の解明が進む契機は、平成16から19年の区画整理に伴う大規模な発掘調査（1272～1274・1282・1295・1327・1328・1339・1340・1375次調査）である。この区画整理事業は西府駅開業と共に計画されたもので、これらの事業を経て、マチの景観は現在の姿に大きく変化していった。

以下に、時代ごとの既往調査成果を概観する。

旧石器時代

区画整理事業に伴う1272次調査で、VI層（ハードルーム層・武蔵野IV層）中から黒曜石製のナイフ型石器1点、尖頭器が1点出土している。1388.T次調査では、VIc層下部～VII層上層から角錐状石器が1点、VIa層下部～VIb層上面からチョッパーが、VIa層下部～VIb層上面より剥片2点が出土している。

このように当地においては、単独での石器検出にとどまるが、府中崖線沿いでは、東方約0.9km先の分梅町における857次調査（『概報25』）で、158点の石器ブロックが検出されており、西方の国立市内では、矢川駅北方の『峰上遺跡』において立川ロームⅢ下層相当から石器ブロック3、礫群1、配石6ヶ所が検出されている。

縄文時代

古くから土器の散布は知られていたが、初めて発掘調査で竪穴建物跡が検出され、集落跡の存在が明らかになったのは、平成元年から2年にかけて実施された、509次調査の時である。それに伴い、『本宿町遺跡』として埋蔵文化財包蔵地に登録される。また、隣接する1388.T次調査では、2000㎡を越す調査区に竪穴建物跡15棟の他、集石土坑7基など、前期末葉から中期前半の集落のまとまりを確認した。さらに区画整理事業に伴う調査では、509次及び1388.T次調査隣接地から同時期中期前半の竪穴建物跡5棟を検出した。

集落の形状としては、中期の定型的集落と比べる環状集落等の規則性は認められない。なお、これら竪穴建物跡24棟（前期末1・中期前半23）から北に100m程離れて、前期末の竪穴建物跡2棟が検出されており（1628次調査）、その間に埋没谷が走っていることが確認されている（第10図）。また、竪穴建物跡は確認されていないが、出土遺物の中には、市内最古級の草創期後半（押圧縄文）から後期（堀之内式）に至る土器が含まれており、当該期の遺構が未調査域に内在している可能性がある。特筆すべき遺物は中期前半の

土偶で、30点以上が確認されており、武蔵野台地において異例の多さである。

弥生時代

府中市内では東京競馬場構内の調査などで遺構・遺物を確認しているが、当地周辺においては遺構は確認されておらず、西府駅北側の1628次調査で表土から中期後半の土器片が出土しているのみである。

古墳・飛鳥時代

1295次調査で、古墳時代前期に比定される堅穴建物跡が1棟検出されており、この調査区より西方400～500mの範囲には、他2棟の堅穴建物跡等(827・865・1295・1570次調査)が検出されており、同一集落を構成する可能性がある。

また、当地周辺は、6世紀から7世紀前半の古墳時代後期所産と考えられている御嶽塚古墳群が分布するエリアに該当し、現在まで、立川段丘崖線沿いの東西約600m、南北約100mの範囲に20基の分布が確認されている。そのうち、5号墳は現地に墳丘が遺存しており、市指定史跡御嶽塚として整備、公開されている。御嶽塚古墳群の最初の調査は、1974年に実施された5号墳のトレンチ調査であるが、この時には古墳と判断する遺物等が出土せず、中世の塚の可能性を言及するにとどまる。その後、区画整理に伴う大規模な発掘調査及び1272次調査(5号墳再調査)、1388.T次調査で相次いで周辺に円墳が発見され、また5号墳の周溝も検出されたため、5号墳は古墳を改変した中近世の塚であることが確認された。

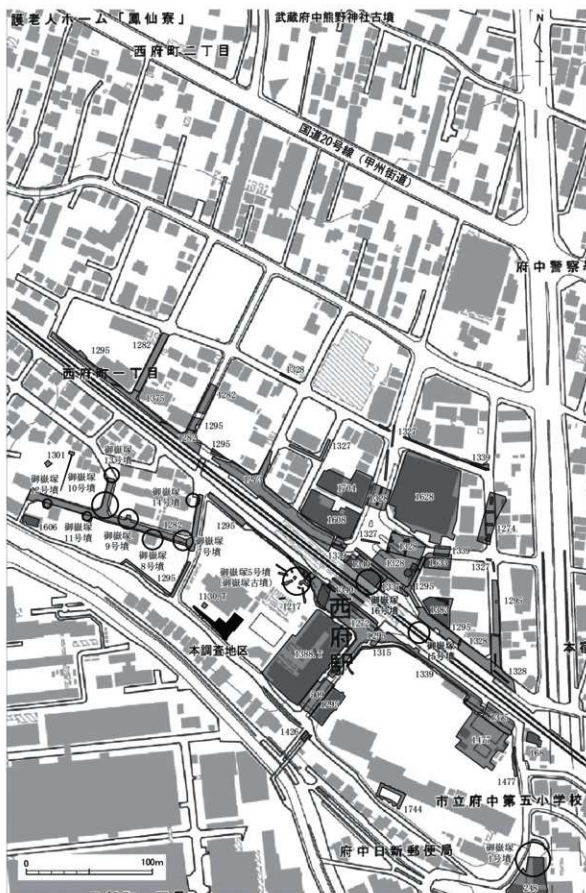
20基の古墳はいずれも円墳で、石室が確認されたものが8基、周溝のみが確認されたものが12基である。この古墳群より台地内部へ約400m離れたところに、国指定史跡武蔵府中熊野神社古墳が単独で存在する。全国的にも希少な上円下方墳で、時期はやや下り7世紀中葉の飛鳥時代所産と推定されている。

古代

当地域は、国指定史跡武蔵国府跡(国衙地区)から西に約2km離れており、膨大な遺構・遺物が発見されている国府中心城と比較して、遺構・遺物は非常に希薄である。目立った遺構としては、西府文化センター敷地内の小規模な調査(1130.T次)と509次調査で墓の可能性のある土坑が各1基検出しているのみである。堅穴建物跡等の居住の痕跡は発見されていないが、遺構外等からわずかに遺物の出土が認められるため、何らかの人的活動はあったものと考えられる。

中世

当地は、京王線・JR南武線分倍河原駅西方の鎌倉街道上道想定経路より西方約900mに位置しており、区画整理に伴う発掘調査で、大規模な区画溝が検出されていることから、在地有力者による居館の存在が指摘されている(第12図)。年代は、大きく3時期に変遷するものと捉えられており、出土遺物から、Ⅰ期は、12～14世紀前葉、Ⅱ期は14世紀後葉～16世紀前葉、Ⅲ期は16世紀後葉～17世紀初頭と報告されている(『報告44』)。Ⅱ期、Ⅲ期の溝は、Ⅰ期の溝に部分的に重複しつつ、東側に構築されている。最大の溝は、上面幅約3m、底面幅約1.5m、深度約1mの規模を持つⅠ期の溝で、府中崖線を南限として東西北の3面をコの字に囲む。この範囲は、東西約200m、南北約190mに及び、今回の



第5図 近隣の調査地区 (1/3,000)

通次数	現場名	グリッド	調査面積	掲載報告書	SA	SB	SD	SE	SF	SI	SK	SX	SZ
168	キャッセルビル1次	M50	84.6	『7年報』	0	0	0	0	0	2	6	1	0
248	ライオンバザンション府中の丘	L 66 L 67 L 76 L 77	176.7	『報30』	0	0	2	0	0	0	13	0	36
509	府中市立第五学童クラブ	L 55 L 65	371.7	『報30』	0	0	0	0	0	4	28	2	1
1130.T	府中文化センター改修工事	L 55	12.2	『報30』	0	0	0	0	0	0	0	4	1
1217	御岳塚跡調査	L 55	103.6	『報36』	0	0	0	0	0	0	6	1	10
1272	西府土地区画整理 (その1)	L 55 L 56	1055.5	『報44』	0	0	6	0	0	2	36	52	6
1273	西府土地区画整理 (その2)	L 45 L 55	1242	『報44』	0	0	6	0	0	0	10	5	0
1274	西府土地区画整理 (その3)	L 46 L 56	421.3	『報44』	0	0	1	0	0	0	5	4	0
1282	西府土地区画整理 (その4)	L 35 L 44 L 45 L 54 L 55	1813.2	『報44』	0	0	7	0	0	0	18	10	9
1295	平成17年度 西府土地区画整理 (その1)	L 34 L 44 L 45 L 54 L 55 L 56 L 65	2948.4	『報44』	0	0	30	0	2	3	23	49	5
1301	西府府立古池緑地調査	L 44	46	『報39』	0	0	0	0	0	0	0	1	1
1315	府中市立府中第五小学校区画整理に伴う埋蔵文化財発掘調査	L 56	76.2	『報39』	0	0	2	0	1	1	0	7	1
1327	西府土地区画整理事業地区緑地調査	L 45 L 46 L 55 L 56	407.3	『報39』	0	0	5	0	0	0	3	2	0
1328	平成18年度 西府土地区画整理 (その1)	L 45 L 46 L 56	1066.8	『報44』	1	1	3	1	1	0	27	40	1
1337	西府土地区画整理事業地区古池緑地調査	L 56	147.4	『報39』	0	0	2	0	0	0	2	2	2
1339	平成18年度 西府土地区画整理 (その2)	L 46 L 55 L 56	697.3	『報44』	0	0	6	0	0	0	5	16	0
1340	平成18年度 西府土地区画整理 (その3)	L 45 L 56	509.3	『報44』	0	0	3	1	0	0	9	18	0
1375	平成19年度西府土地区画整理	L 44 L 45 L 56 L 66	492.5	『報44』	0	0	2	0	1	0	3	9	4
1383	府中市立西府駅北自動車駐車場	L 56	343.4	『報44』	0	0	2	0	1	0	0	1	0
1388.T	レクセル府中西府	L 55 L 56	2591.1	『武蔵国府中地区埋蔵文化財発掘調査報告 レクセル府中西府：新築工事に伴う発掘調査』	2	8	10	0	0	15	60	13	7
1426	平成20年度西府地区緑地調査	L 65	32	『報42』	0	0	1	0	0	0	0	0	0
1477	府中市立府中第五小学校「ブル」改築工事	L 66 L 56	1164.4	『報45』	23	26	3	0	0	0	84	13	8
1606	個人住宅	L 44	76.8	『報46』	0	0	0	0	0	0	2	1	0
1608	プレミアムレジデンス府中西府駅	L 45 L 46 L 55 L 56	931.7	『武蔵国府中地区埋蔵文化財発掘調査報告 プレミアムレジデンス府中西府駅：新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』	3	1	6	1	0	0	22	5	2
1628	(仮称) オーケー西府店	L 46 L 56	2901.1	『武蔵国府中地区埋蔵文化財発掘調査報告 (仮称) オーケー西府店：新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』	0	0	4	0	2	2	5	5	0
1633	西府駅ホテルポートビル	L 56	255	『武蔵国府中地区埋蔵文化財発掘調査報告 西府駅ホテルポートビル：新築工事に伴う発掘調査』	0	1	1	0	1	0	3	1	0
1704	レーベン府中西府	L 45 L 46	865	『武蔵国府中地区埋蔵文化財発掘調査報告 レーベン府中西府：新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』	0	0	4	0	1	0	24	2	0
1744	府中市立府中第五小学校区画整理に伴う発掘調査	L 66	207	『報61』	0	0	3	0	0	0	0	2	0

(SA・埋蔵、SB・掘立柱礎跡、SD・溝、SE・井戸跡、SF・道路跡、SI・掘立柱礎跡、SK・土坑、SX・その他遺構、SZ・墳墓)

第2表 近隣の調査地区一覧表

調査地区はこのI期の溝の内側に位置している。

I期区画溝内部には、中近世に塚として改変されたとみられる御嶽塚5号墳が所在し、発掘調査では、掘立柱建物跡や井戸跡、火葬墓、地下式坑といった遺構や、渥美窯、常滑窯等の国産陶器、貿易陶磁器、かわらけが出土している。また近接する1130.T次調査では、竪穴状遺構1基と板碑片が出土しており、視応(1350～1352)年間の紀年銘がみられる。I期区画溝外、III期区画溝内の1477次調査では、26棟もの掘立柱建物跡が確認されており、建物群が集中するエリアとして注目される。年代は、12～14世紀前葉、14世紀後葉～16世紀前葉と報告されている。なお、248次調査地点付近には、かつて弥勒寺という寺があり(明治時代に廃寺)、旧地からは、板碑が出土している。銘文からは、延文五(1360)年、津戸勘由左衛門尉菅原規雄の供養のため造営されたことが読み取れ、当地における津戸氏の関連が指摘されている。

第4節 調査の経過

本調査区は令和4年11月15日に1区とした東西に長い調査区を設定し、西側から東側に向かって表土除去を開始した。その表土除去に際しては安全対策上、調査区の壁を段掘りするとともに土留めを施しながら進めることとした。表土除去の終了範囲から遺構検出作業を順次行い、11月16日に表土除去が終了し、同日、遺構検出状態の1区全景写真撮影を行った。17日には測量用基準杭を設定した。11月18日から検出遺構の覆土掘削などの調査を開始し、29日に第1面（Ⅲ層～Ⅳ層・縄文時代～中世以降遺構確認面）の調査が終了した。30日より人力による第2面（Ⅴ層・縄文時代遺構確認面）への掘削を開始し、各遺構覆土の掘削、記録、遺物の取り上げ等を行って、12月9日にこの第1区の調査を終了とした。

2区の表土除去は12月14日に開始した。この2区においても安全面への配慮から調査区壁には段を設け、土留めを施しながら作業を進め、12月23日に表土除去は終了した。その後は週明け26日に遺構検出状態の全景写真を撮影し、順次調査を進め、令和5年2月8日に第1面の調査を終えた。翌9日より人力による第2面への掘り下げを、15日には旧石器トレンチの掘削を開始し、それぞれの遺構掘削と記録作業、旧石器トレンチの掘削と平断面の記録及び遺物の取り上げ作業を行って、2月21日に各調査が終了した。翌22日、工程上最後に残った南西部の全景写真を撮影し、一部平面図の作成を行って現地発掘調査の記録作業を完了した。

2月24日に機材の撤出、現場内、周辺の清掃を行い、27日に現場内に残存していた木の抜根作業の立ち合いを行った後、詰所、トイレを撤収し、現地調査を完了した。



写真3 2区調査風景

第5節 基本層序

当調査地区は武蔵野台地上の崖線際に位置している。基本的な土層の堆積状況は立川段丘面における市域の他地域と同様である。下層から礫層、立川ローム層、富士黒土層、耕作土、盛土の順に堆積している。立川ローム層は旧石器トレンチの掘削によりⅦ層（武蔵野層準立川ロームⅤ層に相当）までを確認した。

遺構確認面のレベルを見ると現場は西から東に、また北から南に向かって緩やかな勾配を持っている。西府土地区画整理事業に伴う発掘調査のデータによると本地点の所在する西府文化センターの西側は周辺の中でも特にⅢ層が厚い範囲とされる（『報告書44』）。

以下、基本土層を示す。

盛土 攪乱層を含む。

I層 灰褐色土 耕作土、または林床土。近世以降の覆土の主体土となる。

II層 暗褐色土 粒子が粗い。古代～中世の文化層となる。

III層 濃褐色土 縄文時代の文化層である。

IV層 黄褐色土（ローム漸移層） 武蔵野層準Ⅱc層に相当する。

V層 黄褐色土（ソフトローム層） 粘性があり、武蔵野層準立川ロームⅢ層に相当する。

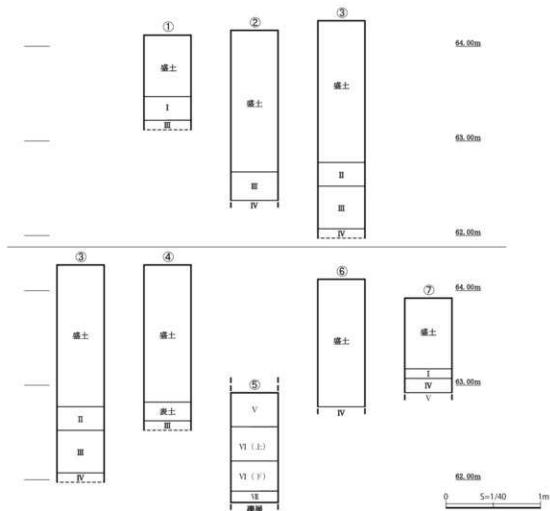
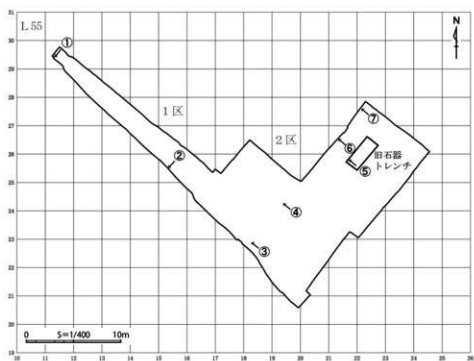
VI層 黄褐色土（ハードローム層） 粘性があり、武蔵野層準立川ロームⅥ層に相当する。

VII層 暗褐色土（暗褐色ローム層） BBI層。武蔵野層準立川ロームⅤ層に相当する。

調査においては、Ⅲ層を古代～中世以降の遺構確認面としたが、Ⅲ層が遺存していない範囲についてはⅣ層上面を確認面として、縄文時代から中世以降の遺構を検出した（第1面）。その後、縄文時代の遺構確認のため、Ⅴ層上面まで調査区全体の掘り下げている（第2面）。さらに、調査後に計画されている工事の掘削がⅤ層以下に及び北側については、旧石器時代の確認のため、トレンチ調査を実施した。

第6図には7ヶ所の断面を示した。確認面としたⅢ層～Ⅳ層を①②③で追うと、北西から南東へ緩やかに低く傾斜していることが分かる。同様に③④⑤⑥⑦についても、台地内部側（⑦）から府中崖線側（③）に向かい低くなる。調査区全体では、⑤⑥⑦付近で傾斜が緩やかになる様子が看取されているが、L55-S123が検出された位置がまさにこの部分であることは示唆的である。

なお、⑤を観察した旧石器トレンチではⅦ層（BBI層）が確認され、その下層は礫層であった。標高値は61.700mである。



第6図 基本土層観察位置図 (1/400). 柱状図 (1/40)